

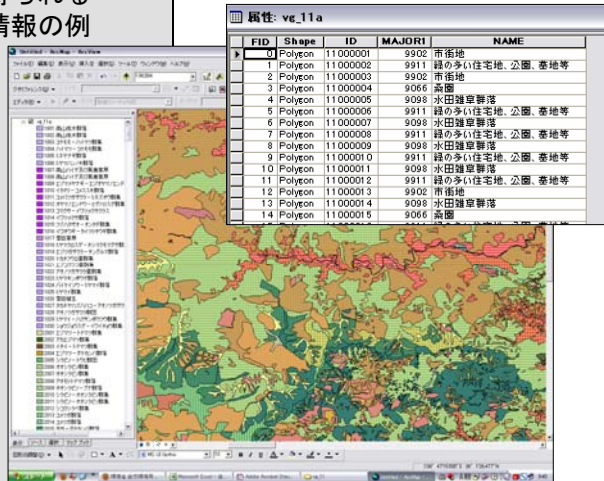
## **(2) 配慮書段階で収集可能な動物、植物及び生態系に関する既存資料**

ここでは、4.2 地域特性の把握の表 4-1 と表 4-2 (P. 35~38) で示した既存資料の概要として、各資料から得られる情報の内容や範囲、配慮書段階の検討における活用可能性等を掲載した。なお、これらの情報は適宜追加・更新されるため、その都度、新たな資料や最新版を確認して入手する必要がある。

自然環境保全基礎調査

機関	情報名	概要	情報の特徴
環境省	自然環境保全基礎調査	全国的な観点から我が国における自然環境の現況及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進するための基礎資料を整備するために、環境省が自然環境保全法第4条の規定に基づき、1973年度から概ね5年ごとに実施している調査である。一般に「緑の国勢調査」と呼ばれ、陸域、陸水域、海域の各々の領域について国土全体の状況を調査している。	全国を網羅した情報
調査目的	自然環境の現況及び改変状況を把握し、自然環境保全施策推進の基礎資料とすることを目的としている。		
調査頻度	5年に一回程度		
調査方法	アンケート調査、聞き取り調査、補完調査（現地調査等）		
情報内容	植生図、特定植物群落の分布、巨樹・巨木の分布、湿地の分布と生物相の情報、藻場・干潟・サンゴ礁の分布 等		
対象範囲	全国		
公開状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境情報 GIS 提供システム (<a href="http://www.biodic.go.jp/trialSystem/top.html">http://www.biodic.go.jp/trialSystem/top.html</a>) にて、GIS化した情報が公開されている</li> <li>報告書及び地図等も公表されている (<a href="http://www.biodic.go.jp/kiso/15/do_kiso4.html">http://www.biodic.go.jp/kiso/15/do_kiso4.html</a>)</li> </ul>		

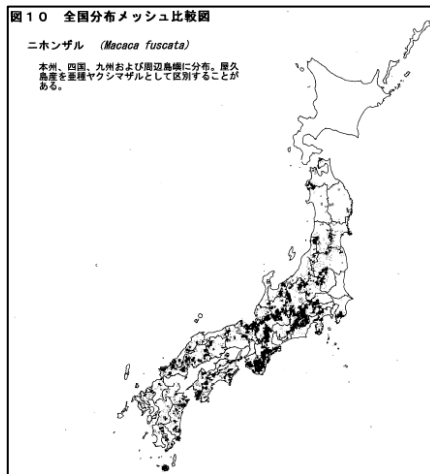
得られる情報の例



<自然環境情報 GIS データ（植生図）>



<自然環境情報 GIS データ（特定植物群落）>



<第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 哺乳類分布調査報告書 2004年より>



<自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査報告書（両生類・爬虫類）2001年より>


配慮書段階での活用可能性

全国を網羅しており、特に植生図は面的かつ基本的な情報である。

生物多様性地域戦略


機関	情報名	概要	情報の特徴
都道府県	生物多様性地域戦略	<p>主に都道府県で定めた生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画で、生物多様性基本法第13条により規定されている。どの自治体の計画も概ね同様の目次構成である。</p> <p>「生物多様性の現状と課題」では、自治体の地域毎の生物の生息・生育状況の特長の記述がある。</p> <p>「生物多様性の保全及び維持可能なための取組み」では、「自然公園、自然保全地域、天然記念物、保安林、鳥獣保護区」等の一般的事項と、県独自で定めた「生物の生息・生育地を保全する地域」を記述している。また具体的な場所の特定は難しいが「その地域で特長的な生物の生息・生育地（例：谷戸地）」の記述がある。</p>	地域計画 (どの自治体の計画も概ね同様の目次構成である。)
策定目的	地域の生物多様性の保全に関する今後の取り組みの方向性を示し、地域住民、地域団体、事業者、自治体が連携・協働して生物多様性を守り、生態系をよみがえらせ、つくり出す行動を起こすための指針とすることを目的としている。		
情報内容	地域内の生物の生育・生息状況・場所、自然環境保全の地域指定 等		
対象範囲	各地方自治体		
公開状況	各自治体のサイトから冊子がダウンロードできる		
得られる情報の例	 <p><b>手賀沼</b> ●北水植物を含む水生植物の宝庫であった。水鳥等多くの野鳥を数えることが出来る。 ●湖沼周辺の宅地化により水質が悪化。●近年、湖沼水質の全国ワースト1であったが、北千葉開発道路の効果もあって、近年水質の改善が見られる。</p> <p><b>印旛沼</b> ●カンナノゴイ、オオセツガ、コジユリ等希少鳥類を含む野鳥の宝庫であった。●干拓により移行帯と湖沼面積が減少している。●水質の悪化(富栄養化、透明度の低下)による水生植物の絶滅、カミツキガメ・ナガエツノグイトウなど外来種の増加が起きている。</p> <p><b>利根川</b> ●上水・農業用水利用のため、各地で取水が行われ、また河口域も影響されている。このため、流量の低下、淡水赤潮の発生等、環境の悪化が生じている。●アメリカナマズ、ブルーギル等、外来魚も多い。●河川数はオオセツガ、コジユリを絡めるとして鳥類の重要な生息地になっている。</p> <p><b>三番瀬</b> ●東京湾沿岸に開かれた干潟・泥炭地であり、担持魚の生育場、水鳥の生息場、潮干狩りやレクリエーションの場・遊場として、貴重な存在である。●平成13年に異が埋立て計画を中止して、現在その再生の取組が行われている。●三方を埋立てられているため、移行帯の消失、青潮の発生、過度の人的利用等様々な課題を抱えている。</p> <p><b>盤洲干潟</b> ●広大な干潟が発達している。●八幡川河口部には、ハママツナなどの希少な植物種が見られるが、人為による影響を受けやすく、十分な監視と配慮が必要。●埋立地には希少なキイロホソゾミムシが生息している。</p> <p><b>富津沖・富津干潟</b> ●岬の北側を中心に干潟・藻場が発達しており、東京湾における貴重な存在である。●岬の南側でそれぞれ特徴的な植物種が発見されるが、埋立げその他の人為を受け、状況は良くない。</p> <p><b>房総丘陵</b> ●明治初期の頃は、大部分がマツ林と草原に覆われていた。その後、種生の回復により、現在は一部の山頂部が準自然林に回復し、自然性が高まっている。●近年のニホンジカの増殖により、森林の下部植生の劣化がおきており、多様性への影響が生じている。●ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ、外来種のキョンなどが増殖し、農林被害が出ている。</p> <p><b>全城</b> 【里山】●各地で谷津田と鬱茂林等の里山がセットになった里山が広がっていた。多様な環境が複合的に存在することから、多様性が高かった。●近年、水田の放棄・農地整備、水路のコンクリート化、森林の管理放棄によるアズマネザサの繁殖・林床層の劣化、竹林の拡大などにより、生物多様性の低下が起きている。 【市街地】●森林地の分断・劣化、移行帯等の消失による環境の単純化、河川の人工構造化と水質の悪化等により、生息・生育地の単純化、外来種の増加等が生じている。</p>		
<生物多様性ちば県戦略>			
配慮書段階での活用可能性	地域における自然環境の概況に係る一般的な事項、その地区で注目される生物種や生息・生育環境、地域で特に保全の望ましい環境等が記載されており、地域の自然環境の状況を把握する上で有用な資料である。		

河川水辺の国勢調査(国土交通省)

機関	情報名	概要	情報の特徴
国土交通省	河川水辺の国勢調査	1990年から、一級河川109水系の直轄管理区間について、「魚類」「底生動物」「植物」「鳥類」「両生類・爬虫類・哺乳類」「陸上昆虫類」の6項目の生物調査と、「河川調査(瀬・淵等)」、「河川空間利用実態調査」の計8項目の調査を、毎年いずれかの項目について実施している。	全国を網羅した情報であるが、河川沿いの線的な情報
調査目的	河川環境の整備と保全を適切に推進するため、河川の自然環境に関する基礎情報の定期的、継続的、統一的な収集整備を図ることを目的としている。(「河川水辺の国勢調査 基本調査マニュアル」より引用)		
調査頻度	5年に1回(魚類調査、底生動物調査、河川環境基図作成調査) 10年に1回(植物調査、鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査)		
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚類：事前調査(文献調査、聞き取り調査、漁業実態等の整理)、現地調査(現地調査の実施、調査結果の記録(調査環境・調査結果)、同定、計測、写真撮影、標本の作製及び保管、調査概要の整理)</li> <li>底生動物：事前調査(文献調査、聞き取り調査)、現地調査(現地調査の実施、調査結果の記録、同定、計測、同定結果の記録、標本の作製及び保管、調査概要の整理)</li> <li>植物：事前調査(文献調査、聞き取り調査)、現地調査(現地調査の実施、調査結果の記録(調査環境・調査結果)、同定、写真撮影、標本の作製及び保管、調査概要の整理)</li> <li>鳥類：事前調査(文献調査、聞き取り調査)、現地調査(現地調査の実施、調査結果の記録(調査環境・調査結果)、同定、写真撮影、調査概要の整理)</li> <li>両爬虫：事前調査(文献調査、聞き取り調査)、現地調査(現地調査の実施、調査結果の記録(調査環境・調査結果)、同定、計測、写真撮影、標本の作製及び保管、調査概要の整理)</li> <li>陸上昆虫類：事前調査(文献調査、聞き取り調査)、現地調査(現地調査の実施、調査結果の記録(調査環境・調査結果)、同定、写真撮影、標本の作製及び保管、調査概要の整理)</li> <li>基図作成調査：事前調査(文献調査、聞き取り調査)、現地調査(陸域調査、水域調査、構造物調査、調査概要の整理)</li> </ul>		
情報内容	魚類、底生動物、植物、鳥類、両爬虫、陸上昆虫類の分布(河川とその周辺に限られる)		
対象範囲	全国の一級河川109水系の直轄管理区間		
公開状況	河川環境 DB ( <a href="http://www3.river.go.jp/">http://www3.river.go.jp/</a> )にて、記者発表資料とあわせて公開、H17年度分まで。地図からの検索、種・河川からの検索などができる。重要種の確認位置など非公開の内容もある。		
得られる情報の例	 <p>河川別調査結果</p> <p>ここでは河川別に、該当する年度の該当種の調査結果について、(平成)年度、河川水辺の国勢調査でマニュアル(河川水辺(生物調査用))に基づき簡易様式で見ることが出来ます。(エクセル形式のファイルを表示します。)</p> <p>河川名の選択では、左側のプルダウンメニューは検索したい河川が表示されない場合は、二級河川のプルダウンメニューより河川を選択してください。</p> <p>調査項目: 魚介類, 底生動物, 植物, 鳥類, 両爬虫, 陸上昆虫類</p> <p>調査時期: 1991, 河川: 利根川, 二級河川, 事務所名: 下流河川事務所</p> <p>調査結果の概要</p> <p>平成17年度、利根川、魚介類調査結果について、以下の概要を表示することができます。</p> <p>見たい概要を選んで、ボタンをクリックして下さい。</p> <p>なお、各概要の説明は、<a href="#">説明</a>をご覧ください。</p> <p> <a href="#">河川の概要</a>  <a href="#">調査地区決定情報</a>  <a href="#">調査地区位置図</a>  <a href="#">調査時期決定情報</a>  <a href="#">調査地区の写真</a>  <a href="#">既往文献調査表</a>  <a href="#">地区別調査結果一覧</a>  <a href="#">毎年出現状況一覧表</a>  <a href="#">出現種目録</a>  <a href="#">遊泳分布図</a> </p> <p>&lt;検索画面と検索結果表示。結果の各項目は主に CSV でダウンロード&gt;</p>		
配慮書段階での活用可能性	河川沿いの線的な情報である点に留意する必要がある。		




### 河川水辺の国勢調査(都道府県)

機関	情報名	概要	情報の特徴
都道府県	河川水辺の国勢調査	国土交通省に準じて、各都道府県管理区間を対象として実施しているが、対象河川は限られている。	河川沿いの線的な情報、一部河川に限られる
調査目的	河川環境の整備と保全を適切に推進するため、河川の自然環境に関する基礎情報の定期的、継続的、統一的な収集整備を図ることを目的としている。（「河川水辺の国勢調査 基本調査マニュアル」より引用）		
調査頻度	5年に1回（魚類調査、底生動物調査、河川環境基図作成調査） 10年に1回（植物調査、鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査）		
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚類：事前調査（文献調査, 聞き取り調査, 漁業実態等の整理）、現地調査（現地調査の実施、調査結果の記録(調査環境・調査結果)、同定、計測、写真撮影、標本の作製及び保管、調査概要の整理）</li> <li>底生動物：事前調査（文献調査, 聞き取り調査）、現地調査（現地調査の実施、調査結果の記録、同定、計測、同定結果の記録、標本の作製及び保管、調査概要の整理）</li> <li>植物：事前調査（文献調査, 聞き取り調査）、現地調査（現地調査の実施、調査結果の記録（調査環境・調査結果）、同定、写真撮影、標本の作製及び保管、調査概要の整理）</li> <li>鳥類：事前調査（文献調査, 聞き取り調査）、現地調査（現地調査の実施、調査結果の記録（調査環境・調査結果）、同定、写真撮影、調査概要の整理）</li> <li>両爬虫：事前調査（文献調査, 聞き取り調査）、現地調査（現地調査の実施、調査結果の記録（調査環境・調査結果）、同定、計測、写真撮影、標本の作製及び保管、調査概要の整理）</li> <li>陸上昆虫類：事前調査（文献調査, 聞き取り調査）、現地調査（現地調査の実施、調査結果の記録（調査環境・調査結果）、同定、写真撮影、標本の作製及び保管、調査概要の整理）</li> <li>基図作成調査：事前調査（文献調査, 聞き取り調査）、現地調査（陸域調査、水域調査、構造物調査、調査概要の整理）</li> </ul>		
情報内容	魚類、底生動物、植物、鳥類、両爬虫、陸上昆虫類の分布（河川とその周辺に限られる）		
対象範囲	各都道府県		
公開状況	河川環境 DB ( <a href="http://www3.river.go.jp/">http://www3.river.go.jp/</a> ) にて、記者発表資料とあわせて公開、または都道府県 HP で各自自治体が公表。		
得られる情報の例	 <p style="text-align: center;">＜群馬県 HP に公開されている調査結果＞</p>		
配慮書段階での活用可能性	河川沿いの線的な情報である点に留意する必要がある。また、調査は都道府県管理河川の一部に限られる。		

## モニタリングサイト 1000

機関	情報名	概要	情報の特徴																	
環境省	モニタリングサイト 1000	日本列島の多様な生態系について、全国にわたって 1000 ヶ所程度のモニタリングサイトを設置し、基礎的な環境情報の収集を長期にわたって継続することにより、日本の自然環境の質的・量的な劣化を早期に把握するための仕組み。調査には、大学、研究機関、専門家、地域の NPO、ボランティアなどが参加している。	全国の継続的なモニタリング調査データが蓄積されている。																	
調査目的	日本列島の多様な生態系のそれぞれについて、全国にわたって 1000 ヶ所程度のモニタリングサイトを設置し、基礎的な環境情報の収集を長期にわたって継続して、日本の自然環境の質的・量的な劣化を早期に把握することを目的としている。モニタリングサイト 1000 を通じて、日本の長期生態系観測態勢を整えることも意義である。																			
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本のさまざまな生態系の動向を把握するため、自然性の高い森林、多様な在来生物が生息する里地里山、人為改変が進められてきた河川、湖沼、海岸、豊かな生物相を育む干潟・藻場・サンゴ礁など、各地に見られる生態系タイプの特性を踏まえてモニタリングサイトを設置する。</li> <li>生態系タイプ別の調査手法により、モニタリングを継続する。また、鳥類を指標種として取り上げ、複数の生態系を横断的にカバーする。</li> </ul>																			
情報内容	森林・草原調査：樹木、昆虫（地表徘徊性甲虫）、鳥類の確認状況等 里地調査：植物相の状況。鳥類、中・大型哺乳類、指標種群等の確認状況等 湖沼・湿原調査：湖辺植生、湿原植生の状況。底生動物の確認状況等 ガンカモ類調査：ガン、ハクチョウ、カモ、カイツブリ、パンの仲間の確認状況等 シギ・チドリ類調査：シギ・チドリ類の確認状況等																			
対象範囲	全国 1000 ヶ所程度のモニタリングサイト																			
公開状況	調査結果は、報告書・データファイル・速報・ニュースレターとしてまとめられ、インターネットサイト上で公開されている。 ( <a href="http://www.biodic.go.jp/moni1000/moni1000/index.html">http://www.biodic.go.jp/moni1000/moni1000/index.html</a> )																			
得られる情報の例	インターネットサイト上では、下記データがダウンロードできる。 <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <td>森林・草原調査</td> </tr> <tr> <td>・ 毎木調査</td> </tr> <tr> <td>・ 落葉落枝・落下種子調査</td> </tr> <tr> <td>・ 地表徘徊性甲虫調査</td> </tr> <tr> <td>・ 陸生鳥類調査</td> </tr> <tr> <td>里地調査</td> </tr> <tr> <td>・ 植物相</td> </tr> <tr> <td>・ 鳥類、中・大型哺乳類</td> </tr> <tr> <td>・ 指標種群 等</td> </tr> <tr> <td>湖沼・湿原調査</td> </tr> <tr> <td>・ 湖辺植生、湿原植生</td> </tr> <tr> <td>・ 底生動物 等</td> </tr> <tr> <td>ガンカモ類調査</td> </tr> <tr> <td>・ ガンカモ類調査</td> </tr> <tr> <td>シギ・チドリ類調査</td> </tr> <tr> <td>・ シギ・チドリ類調査</td> </tr> <tr> <td>等</td> </tr> </table> <p>※情報は随時更新されている</p> <p>現在配置されているモニタリングサイトは、右図の通りである。</p> <div style="text-align: right;"> </div>			森林・草原調査	・ 毎木調査	・ 落葉落枝・落下種子調査	・ 地表徘徊性甲虫調査	・ 陸生鳥類調査	里地調査	・ 植物相	・ 鳥類、中・大型哺乳類	・ 指標種群 等	湖沼・湿原調査	・ 湖辺植生、湿原植生	・ 底生動物 等	ガンカモ類調査	・ ガンカモ類調査	シギ・チドリ類調査	・ シギ・チドリ類調査	等
森林・草原調査																				
・ 毎木調査																				
・ 落葉落枝・落下種子調査																				
・ 地表徘徊性甲虫調査																				
・ 陸生鳥類調査																				
里地調査																				
・ 植物相																				
・ 鳥類、中・大型哺乳類																				
・ 指標種群 等																				
湖沼・湿原調査																				
・ 湖辺植生、湿原植生																				
・ 底生動物 等																				
ガンカモ類調査																				
・ ガンカモ類調査																				
シギ・チドリ類調査																				
・ シギ・チドリ類調査																				
等																				
配慮書段階での活用可能性	全国に 1,000 ヶ所程度のモニタリングサイトが設定されているが、日本全図にプロットされており詳細な位置が把握しにくいこと、個別箇所のデータが現時点ではすぐに関覧できないことなどの制約がある。																			

レッドデータブック(環境省)

機関	情報名	概要	情報の特徴
環境省	レッドデータブック	環境省のものは、環境省が作成・改訂した絶滅のおそれがある動植物のリストに基づき、より具体的な内容を記載したデータブック。正式な名称は1991年に出版されたものは『日本の絶滅のおそれのある野生生物』、1995年からの見直し作業の後に出版されたものは『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック-』という。	全国を網羅した情報
作成目的	野生生物の保全のために、絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解を広めることを目的としている。		
情報内容	クモ形類、維管束植物、汽水魚類、菌類、甲殻類等、昆虫類、藻類、多足類等、淡水魚類、淡水産貝類、地衣類、鳥類、陸産貝類、両生類、哺乳類、爬虫類、蕨苔類の重要種リスト		
対象範囲	全国		
公開頻度	不定期にリストが更新される		
公開状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性情報センター (<a href="http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html">http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html</a>) より、CSV形式の最新版レッドリストをダウンロード可能。H12～H18までに刊行されたRDB掲載種を検索することもできるが、最新版のレッドリストの情報はまだ反映されていない。</li> <li>レッドリスト、レッドデータでは公表形態が異なる。レッドリストはリストのみ、レッドデータブックは位置情報等も記載されている。</li> </ul>		
得られる情報の例	 <p style="text-align: center;">&lt;RDB 掲載種の検索結果表示&gt;</p>		
配慮書段階での活用可能性	<p>重要種の有無と概ねの生息・生育位置がわかる。</p> <p>重要種の位置に関する記載がある場合もあるが、位置情報はメッシュ等で公開されており、詳細な位置の把握は難しい。</p>		

レッドデータブック(都道府県)

機関	情報名	概要	情報の特徴																					
都道府県	レッドデータブック	地方自治体でも環境省に準じて作成されており、47都道府県の全てで作成されている。近畿地方版(植物、鳥類)もある。	自治体によっては分布図も公開																					
作成目的	野生生物の保全のために、絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解を広めることを目的としている。																							
情報内容	クモ形類, 維管束植物, 汽水魚類, 菌類, 甲殻類等, 昆虫類, 藻類, 多足類等, 淡水魚類, 淡水産貝類, 地衣類, 鳥類, 陸産貝類, 両生類, 哺乳類, 爬虫類, 蕨苔類の重要種リストと、場合によってはその分布																							
対象範囲	都道府県																							
公開頻度	不定期に情報が更新される																							
公開状況	冊子で公開されている。Web公開の自治体もある。内容は、リストのみ、分布図、メッシュ図、GIS等、都道府県により公開形態が異なる。																							
得られる情報の例	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p>哺乳類 &lt;トガリ目(モグラ目) モグラ科&gt; 愛知県: 絶滅危惧ⅠA類 (国) (準絶滅危惧) MAMMALIA &lt;SCORIDOMORPHA TALPIDAE&gt; AICH: CR (JAPAN: NT)</p> <p style="text-align: center;"><b>ミズラモグラ</b> <i>Euroscaptor mizura</i> (Günther)</p> <p><b>【選定理由】</b> 日本固有種で、本州のみに生息しており、その分布域は青森県から広島県までおよんでいる(阿部, 2000)。しかし、各個体群の生息地は分断されており、連続した分布域はほとんどない。愛知県では5市町の6ヶ所の分布記録があるにすぎず、分布域、生息個体数ともに限られていると考えられる。県内の個体群は孤立しており、生息環境の悪化により絶滅の可能性があると考えられる。</p> <p><b>【形態】</b> 体重 29.0~35.5g、頭胴長 77.0~107.0mm、尾長 20.0~28.0mm、後足長 11.0~16.0mm、咽骨最大長 25.5~28.0mm (阿部, 2000)。アズマモグラに似たモグラであるが、体の大きさはるかに小さい。短く太い吻の上面前縁には前後に長い三角形の突出部がある。円盤状の鼻端の前方に鼻孔が開く。耳介はなく眼は皮下に埋まっている。手爪の長さと幅はほぼ等しく、長い平爪状の爪を持つ。背丈は 13/3, C11, P4, M3/3=44、背性式は C7+T13+L6+S5+Cl13=44。</p> <p><b>【分布の概要】</b> <b>【県内の分布】</b> 豊田市の翠比呂岳(旧足助町)(子安ほか, 2001)と御所員津町(旧稲武町)(原田, 1996a)、北設楽郡設楽町の田口と田峯(原田, 1996b)、新城市(福来地域)(原田, 1996a; b)、大山市東野(木村・広瀬, 1982)。 <b>【国内の分布】</b> 本州の山地(青森、秋田、岩手、宮城、栃木、群馬、埼玉、新潟、富山、石川、長野、山梨、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、奈良、和歌山、鳥取、島根、広島の23府県)に生息する。 <b>【世界の分布】</b> 日本固有種。 <b>【生息地の環境/生態的特性】</b> 低山から亜高山の針葉樹林にまで生息するとされるが(例として阿部, 2000)、石川県の白山城では高山帯のハイマツ林縁部や岩場にも生息する。愛知県内には高山帯域と亜高山帯域は存在しないので、生息地はすべて山地帯である。県内のミズラモグラは土壌の肥沃度の悪い場所やその周辺に生息すると考えられている(子安ほか, 2001)。生息数が少ないため、生態についてはほとんど情報が無い(阿部, 2000)。 <b>【現在の生息状況/減少の要因】</b> 県内では6ヶ所で生息が確認されているにすぎない。もともと生息密度が低い上に、生息域が重複するアズマモグラやコウベモグラという対抗種によって生態的に閉じこめられ、個体群が分断されていると考えられる。こうした小個体群は構成個体数も少なく分断域も狭いため、森林の伐採、単一植生の拡大、林道建設やダム工事などによる環境悪化により小個体群が絶滅したと考えられる。 <b>【保全上の留意点】</b> 本種の発見記録のある地点とその周辺では常に本種の小個体群が絶滅する可能性があることを前提とする必要がある。ダム湖や道路整備によって個体群が分断されない対策が必要であるが、生息地の破壊・分断が予測される場合には、回避、低減、代替等のミティゲーションが必要である。 <b>【特記事項】</b> 原田(1996)によると、ミズラモグラは北設楽郡の設楽町(旧設楽区域)と豊根村(旧豊根村区域)で観察されているというが、標本の所在などの詳細も知ることができなかったため、分布域に豊根村を含めることを留保した。 <b>【引用文献】</b> 阿部 亮, 2000. 日本産哺乳類調査報告, 379pp. 北産大文学部発行会, 札幌. 原田律雄, 1996a. 哺乳類 陸奥野史, 資料: 本誌, pp. 908-913. 稲武町, 愛知県北設楽郡稲武町. 原田律雄, 1996b. 哺乳類 設楽町誌『自然編』(資料編), pp. 585-593. 設楽町, 愛知県北設楽郡設楽町. 子安ほか, 2001. 小笠原町史 第20号『自然』資料, pp. 189-190. 豊川市, 豊川. 木村幸伸・広瀬 風, 1982. 哺乳類. 大山市史資料編二自然, pp. 235-236. 大山市, 愛知県大山市. <b>【関連文献】</b> 林 智・千英和, 1998. 白土地域のミズラモグラの分布. 石川県白山自然保護センター研究報告, (25) 25-28.</p> </div> <div style="width: 35%;"> <p><b>マツバラン(マツバラン科)</b> <i>Polypodium nudum</i> (L.) Beauv.</p> <p>兵庫県: 希少な 環境省: 準絶滅危惧</p> <p><b>種の特徴</b> 陸地では前縁に着生するが、北の分布域界近くでは岩陰生となる多年生の常緑草本。根茎は露に又分岐し、高1-2m。褐色の根根を密に生じ、ところどころに地上茎をつける。高さは10-40cmである。</p> <p><b>国内分布</b> 本州(宮城、石川県以西の畿地)、四国、九州、沖縄</p> <p><b>県内分布</b> 新宮町、西脇市、高砂市、神戸市、洲本市、南淡町</p> <p><b>選定理由</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分布</th> <th>希少性</th> <th>生息性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>分布</td> <td>希少</td> <td>希少</td> </tr> <tr> <td>生息性</td> <td>希少</td> <td>希少</td> </tr> <tr> <td>希少性</td> <td>希少</td> <td>希少</td> </tr> <tr> <td>生息性</td> <td>希少</td> <td>希少</td> </tr> <tr> <td>希少性</td> <td>希少</td> <td>希少</td> </tr> <tr> <td>生息性</td> <td>希少</td> <td>希少</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>特記事項</b> 特になし</p> <p><b>保護上の留意点</b> 生育地の保全</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">&lt;レッドデータブックあいち 2009&gt;      &lt;兵庫県版レッドリスト 2010&gt;</p>			分布	希少性	生息性	分布	希少	希少	生息性	希少	希少	希少性	希少	希少	生息性	希少	希少	希少性	希少	希少	生息性	希少	希少
分布	希少性	生息性																						
分布	希少	希少																						
生息性	希少	希少																						
希少性	希少	希少																						
生息性	希少	希少																						
希少性	希少	希少																						
生息性	希少	希少																						
配慮書段階での活用可能性	重要種の有無と概ねの生息・生育位置がわかる。重要種の位置に関する記載がある場合もあるが、位置情報はメッシュ等で公開されており、詳細な位置の把握は難しい。																							



植物群落レッドデータ・ブック

機関	情報名	概要	情報の特徴																																																																																																																																																																	
(財)日本自然保護協会	植物群落レッドデータ・ブック	(財)日本自然保護協会とWWF-Japanの共同で1996年に発行された植物群落を対象としたレッドデータ・ブック。 自然の構成要素である植物群落そのものの多様性を、また動植物の生息・生育地として、生態系の多様性を守るために植物群落という単位での保護・保全が必要と考え、緊急に保護・保全が必要な「植物群落」についてリストアップした。 日本全国で7,492件の「植物群落」がリストアップされた。	全国を網羅した情報																																																																																																																																																																	
作成目的	植物群落を保護することは、構成する生物種やそれらを取りまく環境を保全することである。そのため、植物群落の保護を通して、地域の生態系を保全することを目的としている。																																																																																																																																																																			
情報内容	保護・保全が必要な植物群落のリスト。都道府県別のリストもある。																																																																																																																																																																			
対象範囲	全国																																																																																																																																																																			
公開頻度	1996年発行																																																																																																																																																																			
公開状況	書籍でのみ公開																																																																																																																																																																			
得られる情報の例	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>群系タイプコード：01 群系名：マングロープ林 群落コード：01003</p> <h3>サキシマスオウノキ群落</h3> <p><i>Heritiera littoralis</i> community</p> <p>1. 群落の概要 サキシマスオウノキは、アジア南部、東アフリカ、南太平洋に至る地域の熱帯・亜熱帯域に広く分布するアオギリ科の常緑高木である。著しい板根を発達させるのが特徴で、樹高20m以上、板根の高さは3mに達する。また、果実は海流によって散布される。 わか国では奄美大島以南の琉球列島にやや希に自生し、主としてマングロープ群落の後背湿地に群落を形成するほか、河川沿いの湿性立地に小規模な集団や単木で生育する。群落の生育立地は、地下水位の高い土壌堆積地で、同様な立地に成立するサガリバナ群落とモザイクをなして成立している。 よく発達した群落では、高木層は高さ20mに達し、サキシマスオウノキが小群をなして優占する。亜高木層や低木層にはサガリバナ、クロロア、アダン、コミノクログダなどが生育し、特にサガリバナやコミノクログダは下層で優占することが多い。 一部の群落は御嶽林として保護されているが、群落の生育立地が水田に利用されやすく、しかも、材が造船材や橋梁材に最適であったために、現存する個体や群落は少ない。特に、群落は西表島以外ではきわめて希であり、宮古島の下地町と沖縄本島の国頭村などに残存しているに過ぎない。</p> <p>2. 調査群落数 総数：3</p> <p>3. 調査群落の分布 ①水平分布 24° 19' (沖縄)～26° 43' N(沖縄) 123° 54' (沖縄)～128° 07' E(沖縄) ②垂直分布 1～5m ③出現都道府県 沖縄(3)</p> <p>4. 調査群落の面積 最小：0.02ha(沖縄)～最大：0.15ha(沖縄)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <h3>Red List</h3> <h2>《千葉県》</h2> <p>&lt;データベース件数&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>[単一群落]</td> <td>[群落複合]</td> </tr> <tr> <td>チェックシート件数</td> <td>31</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>一覧表件数</td> <td>105</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>複合単位群落件数</td> <td>34</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>データベース件数</td> <td>170</td> <td>28</td> </tr> </table> <p>&lt;新たな保護対策の必要性・緊急性&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>[単一群落]</td> <td>[群落複合]</td> </tr> <tr> <td>ランク4：緊急に対策必要</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ランク3：対策必要</td> <td>12</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>ランク2：破壊の危機</td> <td>117</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>ランク1：要注意</td> <td>6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>記入なし</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>136</td> <td>28</td> </tr> </table> <p>[単一群落] コード 群系名 件数</p> <table border="1"> <tr><td>03</td><td>常緑広葉高木林</td><td>122</td></tr> <tr><td>05</td><td>温帯針葉高木林</td><td>8</td></tr> <tr><td>06</td><td>冷温帯落葉広葉高木林</td><td>12</td></tr> <tr><td>09</td><td>沼沢林</td><td>3</td></tr> <tr><td>12</td><td>温帯性先駆木本群落</td><td>2</td></tr> <tr><td>13</td><td>暖地性先駆木本群落</td><td>1</td></tr> <tr><td>17</td><td>海岸低木林</td><td>4</td></tr> <tr><td>19</td><td>林縁性低木・つる植物群落</td><td>1</td></tr> <tr><td>32</td><td>低層湿原・挺水植物群落</td><td>7</td></tr> <tr><td>34</td><td>沈水植物群落</td><td>1</td></tr> <tr><td>38</td><td>海浜草本群落</td><td>1</td></tr> <tr><td>42</td><td>岩上・岩隙草本群落</td><td>1</td></tr> <tr><td>47</td><td>ススキ・シバ草原</td><td>4</td></tr> <tr><td>49</td><td>水辺短命草本群落</td><td>1</td></tr> <tr><td>53</td><td>植林</td><td>2</td></tr> </table> <p>[群落複合] コード 群落複合タイプ名 件数</p> <table border="1"> <tr><td>01</td><td>暖温帯森林植生</td><td>7</td></tr> <tr><td>02</td><td>冷・暖温帯移行部森林植生</td><td>2</td></tr> <tr><td>06</td><td>河辺植生</td><td>1</td></tr> <tr><td>11</td><td>中間・低層湿原植生</td><td>8</td></tr> <tr><td>12</td><td>水生植生</td><td>3</td></tr> <tr><td>19</td><td>海陸植生</td><td>2</td></tr> <tr><td>20</td><td>砂浜植生</td><td>4</td></tr> <tr><td>21</td><td>塩生湿原植生</td><td>1</td></tr> </table> <h3>単一群落</h3> <table border="1"> <tr> <th>コード</th> <th>No</th> <th>群落名</th> <th>種</th> </tr> <tr> <td>03001</td> <td>12043CS</td> <td>アカガシ群落(八千代市)スタジイヤブコウジ群集</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>03029</td> <td>12008CS</td> <td>シラカシ群落(香取郡下総町)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>03029</td> <td>12032CS</td> <td>シラカシ群落(銚子市)</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>03029</td> <td>12039</td> <td>シラカシ群落(鎌ヶ谷市)シラカシ群集</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>03032</td> <td>12002</td> <td>スタジイ群落(銚子市)スタジイヤブコウジ群集</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>03032</td> <td>12004</td> <td>スタジイ群落(香取郡東庄町)</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>03032</td> <td>12005</td> <td>スタジイ群落(小見川・豊玉姫神社)</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>03032</td> <td>12006</td> <td>スタジイ群落(佐原市)スタジイヤブコウジ群集</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>03032</td> <td>12007CS</td> <td>スタジイ群落(香取郡神崎町)</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>03032</td> <td>12009CS</td> <td>スタジイ群落(香取郡下総町)</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>03032</td> <td>12010</td> <td>スタジイ群落(海上郡海上町)</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>03032</td> <td>12011</td> <td>スタジイ群落(海上郡海上町)スタジイヤブコウジ群集</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>03032</td> <td>12012</td> <td>スタジイ群落(香取郡大栄町)</td> <td>2</td> </tr> </table> </div> </div>				[単一群落]	[群落複合]	チェックシート件数	31	8	一覧表件数	105	20	複合単位群落件数	34	-	データベース件数	170	28		[単一群落]	[群落複合]	ランク4：緊急に対策必要	0	1	ランク3：対策必要	12	8	ランク2：破壊の危機	117	18	ランク1：要注意	6	1	記入なし	1	0	合計	136	28	03	常緑広葉高木林	122	05	温帯針葉高木林	8	06	冷温帯落葉広葉高木林	12	09	沼沢林	3	12	温帯性先駆木本群落	2	13	暖地性先駆木本群落	1	17	海岸低木林	4	19	林縁性低木・つる植物群落	1	32	低層湿原・挺水植物群落	7	34	沈水植物群落	1	38	海浜草本群落	1	42	岩上・岩隙草本群落	1	47	ススキ・シバ草原	4	49	水辺短命草本群落	1	53	植林	2	01	暖温帯森林植生	7	02	冷・暖温帯移行部森林植生	2	06	河辺植生	1	11	中間・低層湿原植生	8	12	水生植生	3	19	海陸植生	2	20	砂浜植生	4	21	塩生湿原植生	1	コード	No	群落名	種	03001	12043CS	アカガシ群落(八千代市)スタジイヤブコウジ群集	2	03029	12008CS	シラカシ群落(香取郡下総町)	3	03029	12032CS	シラカシ群落(銚子市)	2	03029	12039	シラカシ群落(鎌ヶ谷市)シラカシ群集	2	03032	12002	スタジイ群落(銚子市)スタジイヤブコウジ群集	2	03032	12004	スタジイ群落(香取郡東庄町)	2	03032	12005	スタジイ群落(小見川・豊玉姫神社)	2	03032	12006	スタジイ群落(佐原市)スタジイヤブコウジ群集	2	03032	12007CS	スタジイ群落(香取郡神崎町)	2	03032	12009CS	スタジイ群落(香取郡下総町)	2	03032	12010	スタジイ群落(海上郡海上町)	2	03032	12011	スタジイ群落(海上郡海上町)スタジイヤブコウジ群集	2	03032	12012	スタジイ群落(香取郡大栄町)	2
	[単一群落]	[群落複合]																																																																																																																																																																		
チェックシート件数	31	8																																																																																																																																																																		
一覧表件数	105	20																																																																																																																																																																		
複合単位群落件数	34	-																																																																																																																																																																		
データベース件数	170	28																																																																																																																																																																		
	[単一群落]	[群落複合]																																																																																																																																																																		
ランク4：緊急に対策必要	0	1																																																																																																																																																																		
ランク3：対策必要	12	8																																																																																																																																																																		
ランク2：破壊の危機	117	18																																																																																																																																																																		
ランク1：要注意	6	1																																																																																																																																																																		
記入なし	1	0																																																																																																																																																																		
合計	136	28																																																																																																																																																																		
03	常緑広葉高木林	122																																																																																																																																																																		
05	温帯針葉高木林	8																																																																																																																																																																		
06	冷温帯落葉広葉高木林	12																																																																																																																																																																		
09	沼沢林	3																																																																																																																																																																		
12	温帯性先駆木本群落	2																																																																																																																																																																		
13	暖地性先駆木本群落	1																																																																																																																																																																		
17	海岸低木林	4																																																																																																																																																																		
19	林縁性低木・つる植物群落	1																																																																																																																																																																		
32	低層湿原・挺水植物群落	7																																																																																																																																																																		
34	沈水植物群落	1																																																																																																																																																																		
38	海浜草本群落	1																																																																																																																																																																		
42	岩上・岩隙草本群落	1																																																																																																																																																																		
47	ススキ・シバ草原	4																																																																																																																																																																		
49	水辺短命草本群落	1																																																																																																																																																																		
53	植林	2																																																																																																																																																																		
01	暖温帯森林植生	7																																																																																																																																																																		
02	冷・暖温帯移行部森林植生	2																																																																																																																																																																		
06	河辺植生	1																																																																																																																																																																		
11	中間・低層湿原植生	8																																																																																																																																																																		
12	水生植生	3																																																																																																																																																																		
19	海陸植生	2																																																																																																																																																																		
20	砂浜植生	4																																																																																																																																																																		
21	塩生湿原植生	1																																																																																																																																																																		
コード	No	群落名	種																																																																																																																																																																	
03001	12043CS	アカガシ群落(八千代市)スタジイヤブコウジ群集	2																																																																																																																																																																	
03029	12008CS	シラカシ群落(香取郡下総町)	3																																																																																																																																																																	
03029	12032CS	シラカシ群落(銚子市)	2																																																																																																																																																																	
03029	12039	シラカシ群落(鎌ヶ谷市)シラカシ群集	2																																																																																																																																																																	
03032	12002	スタジイ群落(銚子市)スタジイヤブコウジ群集	2																																																																																																																																																																	
03032	12004	スタジイ群落(香取郡東庄町)	2																																																																																																																																																																	
03032	12005	スタジイ群落(小見川・豊玉姫神社)	2																																																																																																																																																																	
03032	12006	スタジイ群落(佐原市)スタジイヤブコウジ群集	2																																																																																																																																																																	
03032	12007CS	スタジイ群落(香取郡神崎町)	2																																																																																																																																																																	
03032	12009CS	スタジイ群落(香取郡下総町)	2																																																																																																																																																																	
03032	12010	スタジイ群落(海上郡海上町)	2																																																																																																																																																																	
03032	12011	スタジイ群落(海上郡海上町)スタジイヤブコウジ群集	2																																																																																																																																																																	
03032	12012	スタジイ群落(香取郡大栄町)	2																																																																																																																																																																	
配慮書段階での活用可能性	保護・保全が必要な植物群落のリストが記載されているため、地域の植物群落が把握できれば、このリストと照合することで保全すべき場所の把握に活用できると考えられる。																																																																																																																																																																			

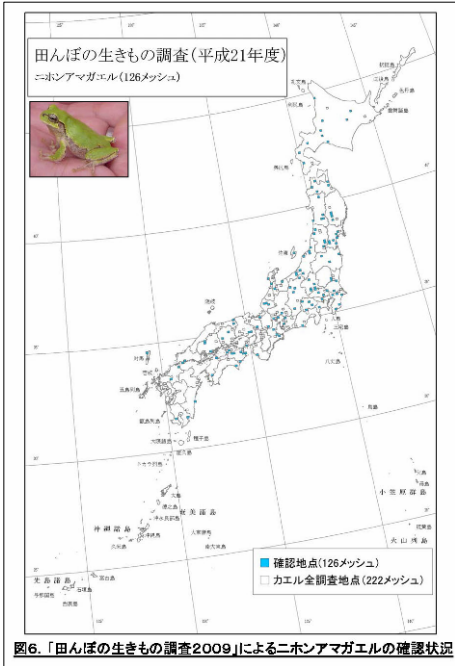
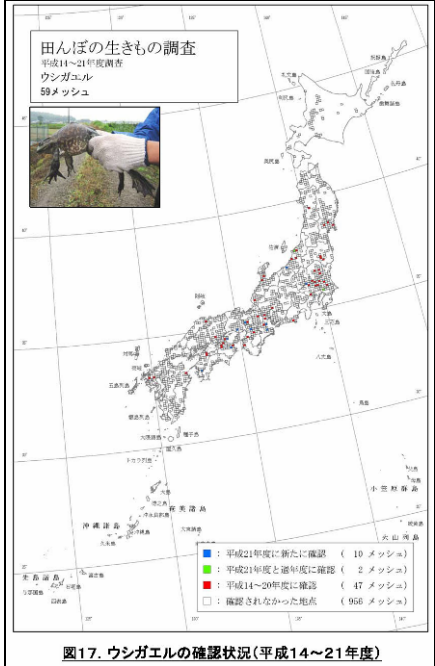
ガンカモ類の生息調査

機関	情報名	概要	情報の特徴																																																																						
環境省	ガンカモ類の生息調査	1970年から、我が国に渡来するガンカモ類の冬期の生息状況の把握を目的として、各都道府県の協力を得ながら実施している。近年は、全国約9,000地点において約4,000人の協力を得て調査を行っている。	ガンカモの越冬場所について全国的に網羅、専門家による調査																																																																						
調査目的	湿地の保全や鳥獣保護区の設定等に活用するため、ガン・カモ・ハクチョウ類の冬期の生息状況及び渡来傾向、保護管理を図るべき生息地等についての基礎資料を得ることを目的としている。																																																																								
調査頻度	毎年																																																																								
調査方法	全国的に定めた調査日に、各都道府県において各調査地点に調査員を配置し、双眼鏡等を使用した目視により、ガンカモ類の個体数を種ごとにカウント																																																																								
情報内容	ガン・カモ・ハクチョウ類の確認数リスト																																																																								
対象範囲	全国の渡来地から選定された地点																																																																								
公開状況	生物多様性情報システム ( <a href="http://www.biodic.go.jp/gankamo/gankamo_top.html">http://www.biodic.go.jp/gankamo/gankamo_top.html</a> ) に、エクセルによる集計表が公開されている。																																																																								
得られる情報の例	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> <th>F</th> <th>G</th> </tr> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> <tr> <th></th> <th>北海道</th> <th>青森</th> <th>岩手</th> <th>宮城</th> <th>秋田</th> <th>山形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オオハクチョウ</td> <td>3841</td> <td>2696</td> <td>3695</td> <td>11507</td> <td>1756</td> <td>1181</td> </tr> <tr> <td>コハクチョウ</td> <td>336</td> <td>254</td> <td>166</td> <td>4385</td> <td>340</td> <td>5512</td> </tr> <tr> <td>アメリカコハクチョウ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>コブハクチョウ</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ハクチョウ類種不明</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>15</td> <td>184</td> <td>21</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>ハクチョウ類合計</td> <td>4181</td> <td>2951</td> <td>3876</td> <td>16077</td> <td>2117</td> <td>6744</td> </tr> <tr> <td>シジュウカラガン</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜公開されている集計表＞</p>			A	B	C	D	E	F	G		1	2	3	4	5	6		北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	オオハクチョウ	3841	2696	3695	11507	1756	1181	コハクチョウ	336	254	166	4385	340	5512	アメリカコハクチョウ	0	0	0	0	0	7	コブハクチョウ	0	1	0	1	0	0	ハクチョウ類種不明	4	0	15	184	21	44	ハクチョウ類合計	4181	2951	3876	16077	2117	6744	シジュウカラガン	0	0	0	8	0	0
A	B	C	D	E	F	G																																																																			
	1	2	3	4	5	6																																																																			
	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形																																																																			
オオハクチョウ	3841	2696	3695	11507	1756	1181																																																																			
コハクチョウ	336	254	166	4385	340	5512																																																																			
アメリカコハクチョウ	0	0	0	0	0	7																																																																			
コブハクチョウ	0	1	0	1	0	0																																																																			
ハクチョウ類種不明	4	0	15	184	21	44																																																																			
ハクチョウ類合計	4181	2951	3876	16077	2117	6744																																																																			
シジュウカラガン	0	0	0	8	0	0																																																																			
配慮書段階での活用可能性	ガンカモの越冬場所について全国的に網羅されているが、詳細な場所が明らかにされていないため、活用には制約がある。																																																																								

シギ・チドリ類渡来地湿地目録

機関	情報名	概要	情報の特徴																																										
環境省	シギ・チドリ類渡来地湿地目録	1988年から1996年までのシギ・チドリ類の全国の主な渡来地において継続的に行われた観察調査結果の目録。シギ・チドリ類が一定基準以上の調査地点を抽出しており、国内の13の地域を重要性の高い地域としている。	シギ・チドリ類の渡来・生息状況から重要湿地が選定されている																																										
作成目的	「東アジア～オーストラリア地域におけるシギ・チドリ類に関する湿地ネットワーク」が構築され、シギ・チドリ類の渡来地としての湿地保全の取組が進められる中、1988年からの調査データの蓄積が進んできたこともあり、目録としてとりまとめられた。																																												
調査頻度	春と秋																																												
調査方法	(財)日本鳥類保護連盟に委託して調査																																												
情報内容	シギ・チドリ類の生息する重要渡来地																																												
対象範囲	全国の渡来地																																												
公開状況	環境省の報道発表資料で、目録が公開されている。 <a href="http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=993">http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=993</a>																																												
得られる情報の例	<p>全国の渡来地から、条件（定期的に20,000羽を超える渡り性シギ・チドリ類が利用等）を満たす湿地73箇所を目録に登録している。</p> <p>この中から、13地域については「シギ・チドリ類重要渡来地域」としている。</p> <p style="text-align: center;">シギ・チドリ類重要渡来地域</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>重要渡来地域</th> <th>関係都道府県</th> <th>主な湿地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道東湖沼群</td> <td>北海道</td> <td>風蓮湖、コムケ湖、瀧沸湖</td> </tr> <tr> <td>利根川河口周辺</td> <td>茨城県、千葉県</td> <td>波崎、神栖、矢田部西前宿</td> </tr> <tr> <td>東京湾</td> <td>千葉県、東京都、神奈川県</td> <td>船橋海浜公園、谷津干潟、小櫃川河口、塩浜、葛西臨海公園、多摩川河口</td> </tr> <tr> <td>河北潟周辺</td> <td>石川県</td> <td>河北潟、高松海岸</td> </tr> <tr> <td>遠州灘海岸</td> <td>静岡県</td> <td>太田川河口</td> </tr> <tr> <td>伊勢湾／三河湾</td> <td>愛知県、三重県</td> <td>汐川河口、庄内川・新川・日光川河口、矢作川河口</td> </tr> <tr> <td>吉野川河口</td> <td>徳島県</td> <td>吉野川河口</td> </tr> <tr> <td>重信川河口</td> <td>愛媛県</td> <td>重信川河口</td> </tr> <tr> <td>周防灘周辺</td> <td>山口県、福岡県、大分県</td> <td>阿知須干拓地、厚狭川河口、曾根干潟、自見川河口、八坂川河口</td> </tr> <tr> <td>博多湾</td> <td>福岡県</td> <td>和白干潟、今津干潟</td> </tr> <tr> <td>有明海／八代海</td> <td>福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県</td> <td>新籠、国造干拓、諫早湾、球磨川河口、白川河口、菊池川河口</td> </tr> <tr> <td>漫湖</td> <td>沖縄県</td> <td>漫湖</td> </tr> <tr> <td>与那覇湾</td> <td>沖縄県</td> <td>与那覇湾</td> </tr> </tbody> </table>			重要渡来地域	関係都道府県	主な湿地	道東湖沼群	北海道	風蓮湖、コムケ湖、瀧沸湖	利根川河口周辺	茨城県、千葉県	波崎、神栖、矢田部西前宿	東京湾	千葉県、東京都、神奈川県	船橋海浜公園、谷津干潟、小櫃川河口、塩浜、葛西臨海公園、多摩川河口	河北潟周辺	石川県	河北潟、高松海岸	遠州灘海岸	静岡県	太田川河口	伊勢湾／三河湾	愛知県、三重県	汐川河口、庄内川・新川・日光川河口、矢作川河口	吉野川河口	徳島県	吉野川河口	重信川河口	愛媛県	重信川河口	周防灘周辺	山口県、福岡県、大分県	阿知須干拓地、厚狭川河口、曾根干潟、自見川河口、八坂川河口	博多湾	福岡県	和白干潟、今津干潟	有明海／八代海	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県	新籠、国造干拓、諫早湾、球磨川河口、白川河口、菊池川河口	漫湖	沖縄県	漫湖	与那覇湾	沖縄県	与那覇湾
重要渡来地域	関係都道府県	主な湿地																																											
道東湖沼群	北海道	風蓮湖、コムケ湖、瀧沸湖																																											
利根川河口周辺	茨城県、千葉県	波崎、神栖、矢田部西前宿																																											
東京湾	千葉県、東京都、神奈川県	船橋海浜公園、谷津干潟、小櫃川河口、塩浜、葛西臨海公園、多摩川河口																																											
河北潟周辺	石川県	河北潟、高松海岸																																											
遠州灘海岸	静岡県	太田川河口																																											
伊勢湾／三河湾	愛知県、三重県	汐川河口、庄内川・新川・日光川河口、矢作川河口																																											
吉野川河口	徳島県	吉野川河口																																											
重信川河口	愛媛県	重信川河口																																											
周防灘周辺	山口県、福岡県、大分県	阿知須干拓地、厚狭川河口、曾根干潟、自見川河口、八坂川河口																																											
博多湾	福岡県	和白干潟、今津干潟																																											
有明海／八代海	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県	新籠、国造干拓、諫早湾、球磨川河口、白川河口、菊池川河口																																											
漫湖	沖縄県	漫湖																																											
与那覇湾	沖縄県	与那覇湾																																											
配慮書段階での活用可能性	重要渡来地の把握に活用することが考えられる。																																												

田んぼの生き物調査

機関	情報名	概要	情報の特徴
農林水産省	田んぼの生き物の調査	2005年から、農村地域（農業用水路や田んぼ）を対象に、広く国民一般も調査に参加する形で、「魚」「カエル」についてその生息状況を把握する調査を実施している。	農村地域に限られる、一般の方の参加による調査である
調査目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>水田やその水田周辺における「魚・水生昆虫（タガメ・ゲンゴロウ等）」、「カエル」等を対象とした生物相の現状を把握すること。</li> <li>生態系保全型の農業農村整備事業推進のため、生物生息状況とその生息環境との関係を把握すること。</li> <li>調査を通じ、農業土木技術者等が水田生態系やその保全に関する意識・知識を向上させるとともに、地域住民等に対し、農業農村の持つ生態系保全機能等への理解を促進すること。</li> </ul>		
調査頻度	毎年		
調査方法	環境調査（流速、水温、水深、底質、水質） 生きもの調査（定置網、カゴ網、タモ網）		
情報内容	魚類, 水生昆虫, カエル, 外来生物の分布		
対象範囲	全国農村地域		
公開状況	公式サイト（ <a href="http://www.acres.or.jp/Acres/chousa/main.htm">http://www.acres.or.jp/Acres/chousa/main.htm</a> ）、環境省 HP（ <a href="http://www.maff.go.jp/j/nousin/keityo/tanbo/">http://www.maff.go.jp/j/nousin/keityo/tanbo/</a> ）にて結果のPDFが公表されている。		
得られる情報の例	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図6.「田んぼの生きもの調査2009」によるニホンアマガエルの確認状況</p> <p>&lt;ニホンアマガエル調査結果&gt;</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図17.ウシガエルの確認状況(平成14～21年度)</p> <p>&lt;ウシガエル経年調査結果&gt;</p> </div> </div>		
配慮書段階での活用可能性	農村地域に限られること、調査方法のばらつきの可能性等に留意する必要がある。		



昆虫類の多様性保護のための重要地域第1～3集

機関	情報名	概要	情報の特徴
日本昆虫学会	昆虫類の多様性保護のための重要地域第1～3集	昆虫類の生物多様性保護の観点から選定された重要地域について記載されている。例えば第1集では全国53地域について、その範囲、地域の概要、選定理由、保護のあり方等が示されている。	全国を網羅した情報
作成目的	昆虫について生物多様性の上で重要な地域は、生物全体にとっても重要な地域であるため、地域指定により、生物多様性の保全の今後の施策・運動の上で、また、生物相解明の上で指針になるように作成された。		
指定方法	「重要な地域」の選定は、各地の執筆者に基本的には一任されている。選定基準は個々の地域について述べられている。		
情報内容	昆虫類からみた重要地域の場所		
対象範囲	全国		
公開状況	冊子での公開。第1集は、webで冊子をダウンロードできる。		
得られる情報の例	<p style="text-align: center;">昆虫類の多様性保護のための重要地域第1集 掲載地域一覧</p>  <p style="text-align: center;">＜指定状況（第1集）＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">＜狭山丘陵の例＞</p>		
配慮書段階での活用可能性	自然環境を保全する観点から抽出した地域であるため、配慮を検討すべき場所を把握する上で有用と考えられる。		


維管束植物レッドリスト種分布データ

機関	情報名	概要	情報の特徴
環境省	維管束植物レッドリスト種分布データ	2次メッシュレベルで、生物多様性情報システムで公開されている。	全国を網羅した情報
作成目的	野生生物の保全のために、絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解を広めることを目的とする。		
情報内容	維管束植物の絶滅危惧種の分布（メッシュ）		
対象範囲	全国		
公開状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性情報システム (<a href="http://www.biodic.go.jp/cgi-db/gen/RDB_G2000_SY.rdb_mainlist?start_row=1&amp;end_row=50">http://www.biodic.go.jp/cgi-db/gen/RDB_G2000_SY.rdb_mainlist?start_row=1&amp;end_row=50</a>) にて公開。RDB掲載種のうち、乱獲のおそれが少ない種のみを公開している。メッシュとなっているが、メッシュ区分の地域名が記載されているのみ。</li> </ul>		
得られる情報の例	 <p style="text-align: center;">&lt;web サイトでの公開形態&gt;</p>		
配慮書段階での活用可能性	2次メッシュ（10km 四方）のデータのため、道路事業の構想段階の検討スケールでは、活用に制約がある面も考えられる。		

植物誌

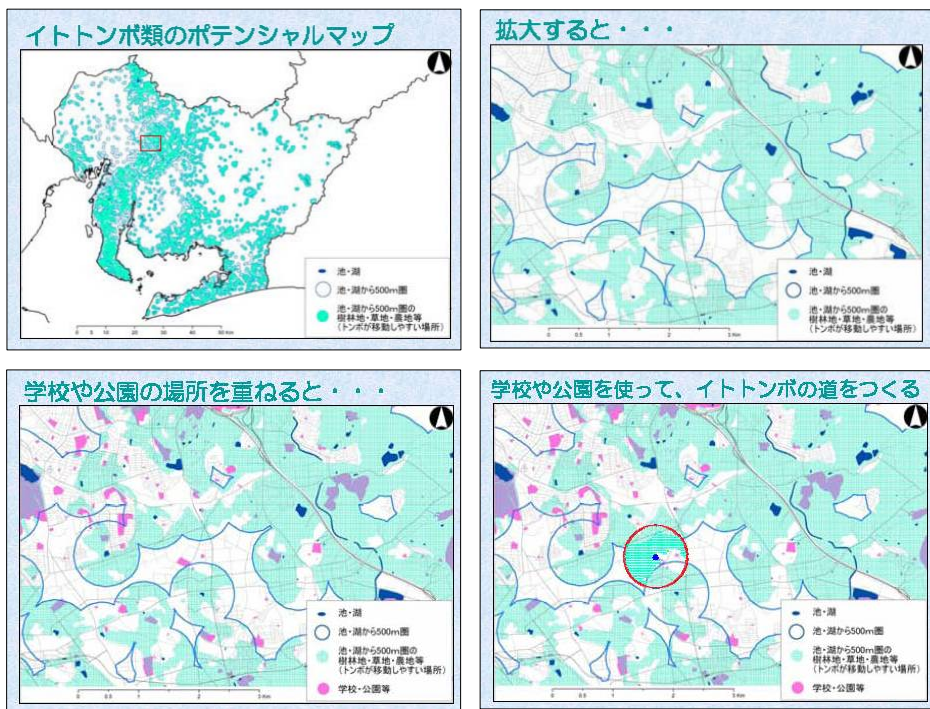
機関	情報名	概要	情報の特徴
都道府県	植物誌	ある地域の植物の総目録。分布図を作成している自治体もある。(例：神奈川県)	—
作成目的	ある地域の植物（維管束植物）の分布・生態等を記録したもので、「健全な生態系の維持」「多様な植物相の保持」を目的としている。		
調査方法	神奈川県の場合は、文献調査・現地調査を、市民参加で実施している。		
情報内容	植物（維管束植物）の種ごとの分布・生態		
対象範囲	都道府県や市町村等の自治体単位		
公開状況	書籍にて販売		
得られる情報の例	<p style="text-align: center;">ミクリ 5cm 5mm ナガエミクリ 5cm 5mm ヒメミクリ 5cm 5mm ヤマトミクリ 5cm 5mm</p> <p style="text-align: center;">ミクリ属の花序の模式図（○が雌性頭花の位置）</p> <p style="text-align: center;">ヒメミクリ ヤマトミクリ ミクリ ナガエミクリ</p> <p style="text-align: center;">＜神奈川県植物誌 2001 より＞</p>		
配慮書段階での活用可能性	例えば神奈川県では分布図も入れて作成されており、活用が期待できる面があるが、整備されている地域に限られると考えられる。		

日本の地形 RDB

機関	情報名	概要	情報の特徴
民間	日本の地形 RDB	「日本の地形レッドデータブック作成委員会」による。全国各地の約 700 の地形が写真または地図を用い、個別に特性や現状などについて簡潔に解説されている。	全国を網羅した情報
作成目的	日本の自然を代表する優れた地形でありながら、現在、破壊の進みつつある地形、あるいは破壊の危機にある地形を抽出し、何らかの保護策を提言することを目的としている。（『日本の地形レッドデータブックの作成』より引用）		
調査方法	現地調査とアンケート調査により、各地方ごとの「既に破壊されてしまった地形、破壊の恐れのある地形」を抽出し、各地方ごとの『日本の地形レッドデータブック作成委員会委員』が調査結果のとりまとめを行う。		
情報内容	重要な地形の分布		
対象範囲	全国		
公開状況	<div style="text-align: center;">  <p>日本の地形 レッドデータブック</p> <p>第1集 小泉 武栄・青木 賢人 編 1994</p> <p>発行 日本の地形レッドデータブック 作成委員会</p> </div> <p>&lt;書籍のみの公開&gt;</p>		
配慮書段階での活用可能性	全国の重要な地形が網羅されており、改変に対する注意を要する場所を把握する上で活用が考えられる。		



生物多様性ポテンシャルマップ（生息適地図）

機関	情報名	概要	情報の特徴
愛知県	生物多様性ポテンシャルマップ（生息適地図）	愛知県で作成された「あいちの生物多様性ポテンシャル気づく・まもる・つなげるマップ」は、生物が実際に生息している場所だけでなく、生息しやすいと考えられる場所（生態的特性に基づいて抽出した生息適地）を図示し、広く実用化することを目的とした日本初のマップである。	現在のところ、愛知県のみで作成
作成目的	開発によって分断され、孤立した自然環境をつなげることによって生態系の保全・再生を図る〈生態系ネットワーク〉を、県内全域において進めていくためのランドデザインとなることを目的としている。（ <a href="http://www.pref.aichi.jp/0000035714.html">http://www.pref.aichi.jp/0000035714.html</a> より引用）		
情報内容	哺乳類（カヤネズミ、ツキノワグマ、テン）、鳥類（サギ類、ヨシゴイ、カモ類（マガモ属）、オオタカ、サシバ、クマタカ、シギ・チドリ類、シジュウカラ）、は虫類（アカウミガメ）、両生類（アカガエル類）、魚類（アユ・ウナギ）、昆虫類（止水性イトトンボ類、オオムラサキ）の生息適地図		
対象範囲	愛知県		
頻度	平成22年度作成		
作成方法	公益財団法人 日本生態系協会の HSI モデルなどを用いて、指標種の生息可能性（ポテンシャル）を解析		
公開状況	書籍として希望者に無償配布している。		
得られる情報の例	 <p style="text-align: center;">＜ポテンシャルマップの例（止水性イトトンボ） より引用＞</p>		
配慮書段階での活用可能性	愛知県で先行的に検討された状況であるが、今後の展開・活用が注目されるツールである。		